

第3章 人口動態統計

1 概 要 (表1)【統計編 2-第1表】

人口動態統計は、戸籍法及び死産の届出に関する規程に基づいて届け出られる出生・死亡・婚姻・離婚及び死産について、市町村長が各々の届書等から人口動態調査票を作成し、これを厚生労働省において集計した統計である。

令和5年における本県の人口動態統計の概況は、表1のとおりである。

各事象を令和4年と比較すると、実数で増加したのは死亡、周産期死亡であり、減少したのは出生、死産、婚姻及び離婚である。

死亡率(人口千対)は14.6で前年より0.2ポイント、周産期死亡率(出産千対)は4.2で前年より0.5ポイント上回り、出生率(人口千対)は5.4で前年より0.4ポイント、死産率(出産千対)は22.0で前年より0.9ポイント下回った。婚姻率(人口千対)3.4で前年より0.2ポイント下回り、離婚率(人口千対)は前年より0.01ポイント上回った。

全国と比較すると、死亡率、死産率、周産期死亡率で全国を上回り、出生率、婚姻率及び離婚率で全国を下回った。

表1 人口動態の年間発生件数・率、対前年・対全国

事 項	群馬県						全国	
	実 数			率			率	
	令和4年	令和5年	差引増減	令和4年	令和5年	差引増減	令和4年	令和5年
出 生	10,688	9,950	△738	5.8	5.4	△0.4	6.3	6.0
死 亡	26,589	26,743	154	14.4	14.6	0.2	12.9	13.0
乳 児 死 亡	17	21	4	1.6	2.1	0.5	1.8	1.8
新 生 児 死 亡	9	12	3	0.8	1.2	0.4	0.8	0.8
自 然 増 減	△ 15,901	△16,793	△892	△8.6	△9.2	△0.6	△6.5	△7.0
死 産	251	224	△27	22.9	22.0	△0.9	19.3	20.9
自 然 死 産	110	98	△12	10.1	9.6	△0.5	9.4	9.6
人 工 死 産	141	126	△15	12.9	12.4	△0.5	9.9	11.3
周 産 期 死 亡	40	42	2	3.7	4.2	0.5	3.3	3.3
妊 娠 満 22 週 以 後 の 死 産	35	31	△4	3.3	3.1	△0.2	2.7	2.7
早 期 新 生 児 死 亡	5	11	6	0.5	1.1	0.6	0.6	0.6
婚 姻	6,704	6,220	△484	3.6	3.4	△0.2	4.1	3.9
離 婚	2,765	2,751	△14	1.49	1.50	0.01	1.47	1.52

【出典】人口動態統計

(注) 率は厚生労働省算出による。

出生・死亡・自然増加・婚姻及び離婚の各率は人口千対

乳児・新生児・早期新生児死亡の各率は出生千対

死産率は出産(出生+死産)千対

周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対

2 出 生

(1) 出生の動向（表2、図1）【統計編 2-第1、2表】

本県の出生率（人口千対）は、昭和22年から昭和24年までの期間は30.0を上回り、戦後第1次のベビーブームといわれる高出生率であった。

しかし、戦後の家族計画の普及に伴う出生抑制の浸透で、その後は年々低下を続け、昭和31年に20を下回り、昭和37年には15.7となった。以後昭和41年の「ひのえうま」の特殊な低下を除き上昇傾向に転じ、第2次ベビーブーム期の昭和48年には18.9となったが、その後は再び低下傾向に転じ、平成5年に9.7を記録した。

その後は、上昇と下降をくり返しながらも減少傾向にあり、令和5年の出生数は9,950人、率は5.4で前年から0.4ポイント低下した。また、出生率を全国と比較すると、昭和32年から昭和50年にかけて全国を下回っていたが、昭和51年以降はほぼ拮抗状態にあった。平成3年から平成17年にかけては全国をやや上回って推移していたが、平成18年以降全国を下回っている。

合計特殊出生率は、第2次ベビーブーム期以降低下し、平成5年には1.54となった。その後は緩やかな低下傾向が続き、近年は増減を繰り返しながらもほぼ横這いの状況で、令和5年は1.25で前年から0.07ポイント低下した。合計特殊出生率を全国と比較すると、平成24年、平成25年を除き全国を上回る傾向で推移している。

表2 出生数・率（人口千対）の推移

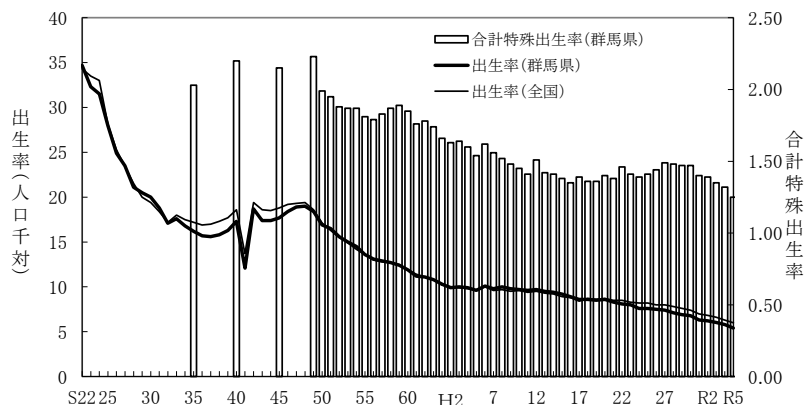
年次	出生数	出生率	合計特殊出生率	全 国	
				出生率	合計特殊出生率
昭和30	32,339	20.0	...	19.4	2.37
40	27,885	17.4	2.21	18.6	2.14
50	29,616	16.9	1.99	17.1	1.91
60	22,917	12.0	1.85	11.9	1.76
7	19,431	9.8	1.56	9.6	1.42
17	17,134	8.6	1.39	8.4	1.26
27	14,256	7.4	1.49	8.0	1.45
29	13,279	6.9	1.47	7.6	1.43
30	12,922	6.8	1.47	7.4	1.42
令和元	11,901	6.3	1.40	7.0	1.36
2	11,660	6.2	1.39	6.8	1.33
3	11,236	6.0	1.35	6.6	1.30
4	10,688	5.8	1.32	6.3	1.26
5	9,950	5.4	1.25	6.0	1.20

【出典】人口動態統計

（注）合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女子の年齢別出生率の合計で、仮に一人の女性がその年の年齢別出生率で一生の間に生むとした時の平均子ども数に相当する。

昭和60年以降は、国籍法・戸籍法の一部改正により、国籍の取得が父母両血統主義となったため、父外国人、母日本人の出生も含む。

図1 出生率（人口千対）・合計特殊出生率の推移



【出典】人口動態統計

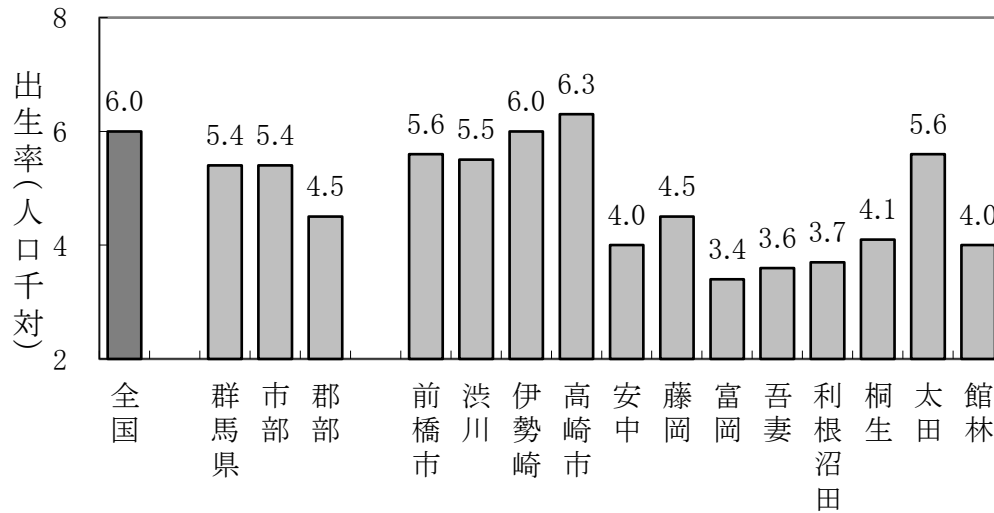
（２）地域別出生【統計編２－第３表】

地域別に令和５年の出生率をみると、市部 5.4、郡部 4.5 となっている。

① 保健福祉事務所（保健所）別出生率（図２）

保健福祉事務所（保健所）別にみると、高崎市が 6.3 と高くなっている。最低は富岡保健福祉事務所であり、その差は 2.9 ポイントである。

図２ 保健福祉事務所（保健所）別出生率（人口千対）



【出典】 人口動態統計

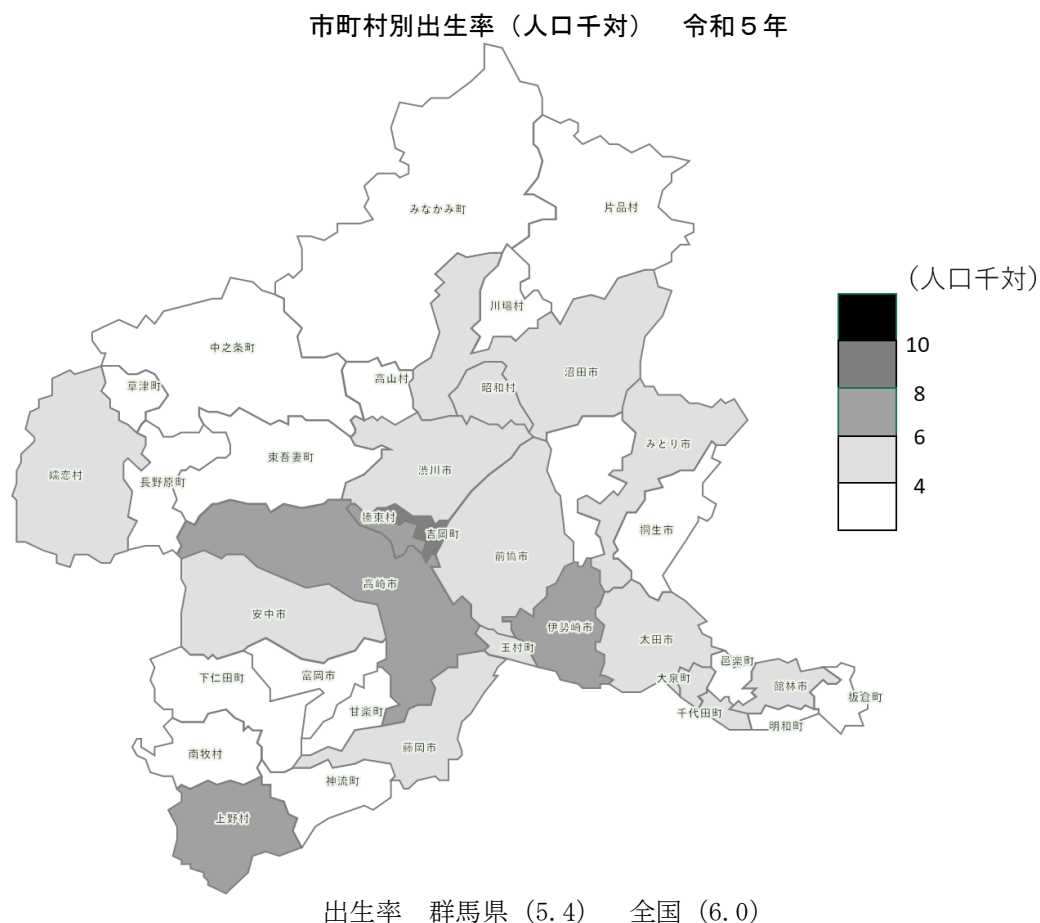
② 市町村別出生率 (表 3)

市町村別にみると、令和5年の出生率で最も高いのは吉岡町の8.6で、次いで上野村の7.8、榛東村の6.6の順となっている。一方、最も低いのは神流町の1.4で、次いで下仁田町の1.7、板倉町の2.1の順となっている。

表3 出生率（人口千対）の高率市町村と低率市町村の推移

順位		平成2	12	22	27	令和元	2	3	4	5
高い	1	大泉町 13.7	群馬町 13.2 笠懸町	吉岡町 10.3	吉岡町 11.3	吉岡町 9.4	吉岡町 9.2	吉岡町 9.3	吉岡町 10.3	吉岡町 8.6
	2	笠懸町 12.0		太田市 9.4	上野村 8.9	伊勢崎市 7.3	榛東村 7.5	伊勢崎市 6.8	榛東村 6.5	上野村 7.8
	3	嬬恋村 11.7 月夜野町	赤堀町 12.7	伊勢崎市 9.2	伊勢崎市 8.4	高崎市 7.1	伊勢崎市 7.0	高崎市 6.7	高崎市 6.4	榛東村 6.6
	4		(佐)東村 12.1	明和町 9.1	高崎市 8.1	昭和村 7.0	太田市 6.8 高崎市		前橋市 6.2 玉村町 太田市	高崎市 6.3
	5	玉村町 11.2	藪塚本町 11.8	みどり市 8.9	榛東村 8.0	高山村 6.9		玉村町 6.6		伊勢崎市 6.0
低い	5		中里村 4.3	片品村 4.3	板倉町 4.0	草津町 3.4	草津町 3.3	神流町 2.5	板倉町 2.2	南牧村 2.9
	4	(勢)東村 5.7	万場町 3.5 上野村	上野村 3.8	神流町 3.1	川場村 2.8		板倉町 2.3	東吾妻町 2.1	長野原町 2.8
	3	上野村 5.3 昭和村		神流町 3.4	下仁田町 2.9	下仁田町 2.7	板倉町 3.1 南牧村	草津町 2.0	下仁田町 2.0	板倉町 2.1
	2		(勢)東村 3.4	下仁田町 3.1	片品村 2.7	神流町 1.2	下仁田町 2.3	下仁田町 1.9	神流町 1.3	下仁田町 1.7
	1	南牧村 4.1	南牧村 1.8	南牧村 2.9	南牧村 2.0	南牧村 0.6	神流町 1.8	南牧村 1.3	南牧村 0.7	神流町 1.4
累計		10.0	9.7	8.1	7.4	6.3	6.2	6.0	5.8	5.4

【出典】人口動態統計



【出典】人口動態統計

（３）出生順位と母の年齢（表４、５、６、図３）【統計編２－第９表】

令和５年の出生数を出生順位別にみると、令和５年は第１子が４４.５%を占め、次いで第２子が３７.６%、第３子は１３.８%、第４子以上は４.１%であった。

令和５年の合計特殊出生率は１.２５であるが、これを年齢階級別にみると、３０～３４歳が０.４４で最も高く、次いで２５～２９歳が０.３６となっている。

また、母の年齢（５歳階級）別出生数をみると令和５年は３０～３４歳が３,５９４人で最も多く、３０歳以上で出産する割合が高くなっている。

表４ 出生順位別出生数百分率の推移

(年次別)						
年次	総数	第１子	第２子	第３子	第４子	第５子以上
昭和60	100.0	41.6	40.6	15.5	1.9	0.5
平成2	100.0	43.2	38.6	15.6	2.1	0.4
7	100.0	47.5	37.0	13.0	2.0	0.4
12	100.0	48.7	37.3	11.9	1.7	0.4
17	100.0	46.6	39.2	11.8	1.8	0.6
22	100.0	45.7	38.0	13.4	2.3	0.6
27	100.0	46.8	36.8	13.2	2.5	0.7
28	100.0	45.6	37.9	13.1	2.8	0.7
29	100.0	45.2	37.6	13.5	2.9	0.8
30	100.0	45.8	37.2	13.5	2.5	1.0
令和元	100.0	45.3	37.3	13.7	2.6	1.0
2	100.0	44.8	38.2	13.3	2.7	1.0
3	100.0	45.1	36.8	13.8	3.2	1.0
4	100.0	45.4	36.4	14.1	2.9	1.2
5	100.0	44.5	37.6	13.8	3.1	1.0
(令和5実数)	9,950	4,424	3,737	1,375	311	103

【出典】人口動態統計

表５ 合計特殊出生率（年齢階級別内訳）の推移

(年次別)								
年次	総数	15～19歳	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
昭和60	1.85	0.02	0.35	0.91	0.45	0.09	0.01	0.00
平成2	1.63	0.02	0.27	0.73	0.50	0.11	0.01	0.00
7	1.56	0.02	0.25	0.64	0.50	0.14	0.01	0.00
12	1.51	0.03	0.26	0.55	0.49	0.17	0.02	0.00
17	1.39	0.03	0.22	0.46	0.44	0.18	0.02	0.00
22	1.46	0.02	0.21	0.49	0.49	0.22	0.04	0.00
27	1.49	0.02	0.16	0.46	0.50	0.25	0.04	0.00
28	1.48	0.02	0.17	0.43	0.50	0.25	0.05	0.00
29	1.47	0.01	0.15	0.43	0.49	0.24	0.05	0.00
30	1.47	0.01	0.16	0.43	0.49	0.26	0.05	0.00
令和元	1.40	0.01	0.13	0.42	0.46	0.25	0.05	0.00
2	1.39	0.01	0.13	0.42	0.50	0.26	0.05	0.00
3	1.35	0.01	0.13	0.40	0.46	0.25	0.05	0.00
4	1.32	0.01	0.10	0.39	0.45	0.25	0.05	0.00
5	1.25	0.01	0.10	0.36	0.44	0.23	0.05	0.00

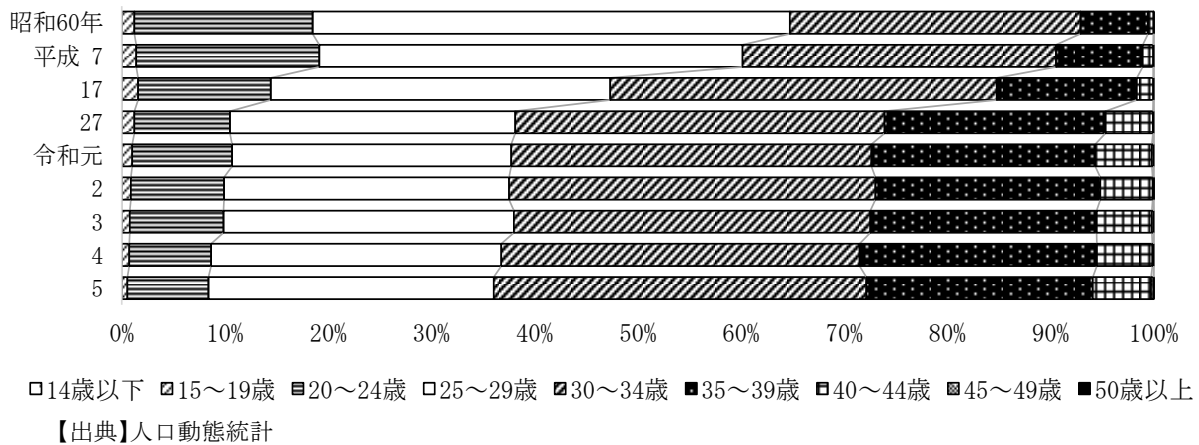
【出典】人口動態統計

表６ 母の年齢（５歳階級）別出生数の推移

(年次別)										
年次	総数	14歳以下	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上
昭和60	22,917	-	283	3,958	10,596	6,454	1,501	121	4	-
平成2	19,470	-	286	3,277	8,405	5,786	1,513	200	3	-
7	19,431	1	271	3,446	7,972	5,904	1,630	196	10	1
12	19,445	-	340	2,951	7,744	6,227	1,969	211	3	-
17	17,134	2	268	2,203	5,639	6,416	2,326	274	6	-
22	16,023	2	200	1,731	4,725	5,706	3,164	481	14	-
27	14,256	-	176	1,317	3,944	5,100	3,054	655	10	-
28	13,661	1	157	1,394	3,606	4,870	2,945	675	13	-
29	13,279	-	123	1,256	3,574	4,824	2,793	691	15	3
30	12,922	-	118	1,339	3,441	4,534	2,784	680	26	-
令和元	11,901	-	122	1,149	3,222	4,153	2,580	655	20	-
2	11,660	-	102	1,053	3,222	4,140	2,540	592	10	1
3	11,236	1	88	1,020	3,160	3,881	2,465	602	19	-
4	10,688	-	79	846	3,007	3,710	2,458	575	13	-
5	9,950	-	54	782	2,750	3,594	2,183	562	24	1

【出典】人口動態統計

図3 母の年齢（5歳階級）別出生数の割合、年次別



（４）出生の場所と立会者（表7）【統計編2－第4表】

令和5年の出生を場所別にみると、施設内（病院、一般診療所、助産所）における出生の割合は99.9%であり、その内訳は、病院49.5%、診療所50.3%、助産所0.1%であった。

また、立会者別にみると、施設内での出生割合が高いことから医師が立会う割合が極めて高くなっている。

表7 出生の場所・立会者別出生数百分率

年次	総数	出生の場所					出生時の立会者		
		施設内				施設外			
		病院	診療所	助産所	計		医師	助産師	その他
昭和60	100.0	51.9	47.3	0.7	99.9	0.1	99.2	0.7	0.0
平成2	100.0	54.4	45.2	0.3	99.9	0.1	99.7	0.3	0.0
7	100.0	50.8	48.9	0.2	99.9	0.1	99.7	0.3	0.0
12	100.0	47.3	52.3	0.3	99.9	0.1	99.5	0.4	0.0
17	100.0	45.5	54.1	0.3	99.8	0.2	98.3	1.7	0.0
22	100.0	48.7	51.0	0.2	99.9	0.1	97.9	2.1	0.0
27	100.0	52.0	47.8	0.1	99.9	0.1	95.0	4.9	0.0
28	100.0	50.9	48.8	0.1	99.8	0.2	95.6	4.3	0.1
29	100.0	53.3	46.5	0.1	99.9	0.1	95.8	4.2	0.0
30	100.0	53.0	46.8	0.1	99.9	0.1	95.6	4.3	0.0
令和元	100.0	49.6	50.1	0.1	99.8	0.2	96.2	3.7	0.1
2	100.0	47.8	52.0	0.1	99.9	0.1	97.4	2.6	0.0
3	100.0	48.5	51.2	0.1	99.9	0.1	97.3	2.7	0.0
4	100.0	49.7	50.1	0.1	99.9	0.1	97.8	2.2	0.0
5	100.0	49.5	50.3	0.1	99.9	0.1	97.8	2.2	0.0
（令和5年実数）	9,950	4,926	5,008	8	9,942	8	9,734	214	2

【出典】人口動態統計

（注）数値は小数点第二位を四捨五入しているため、内訳の総和と総数が一致しない場合がある。

（５）出生時の体重（表８、図４）【統計編２－第８表】

出生時における体重別でみると、「3.0 以上 3.5kg 未満」が最も多く 41.4%、次いで「2.5 以上 3.0kg 未満」が 39.2%、「3.5 以上 4.0kg、未満」が 9.0%であった。

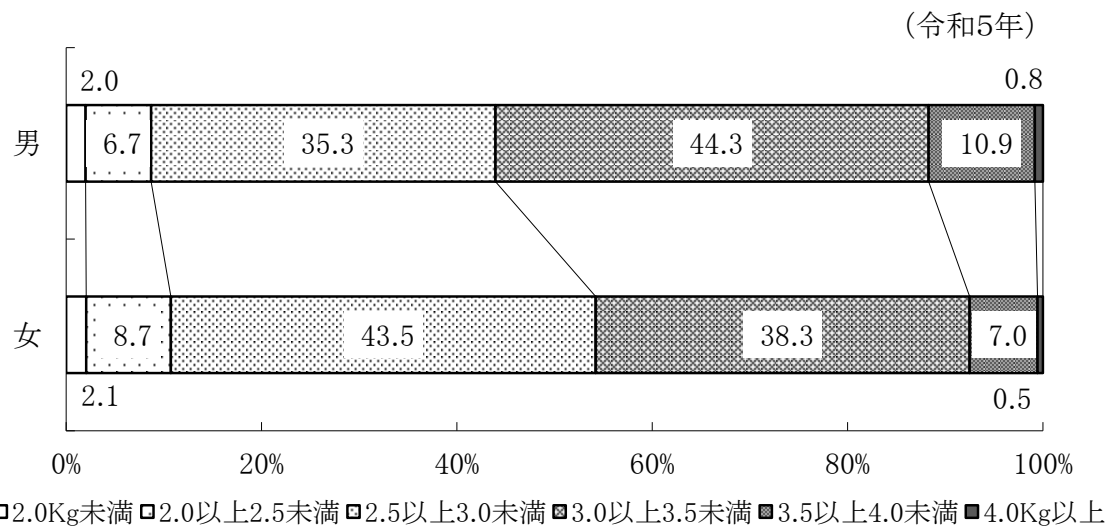
また、2.5kg 未満児の割合は 9.7%（963 人）であった。

表８ 出生時の体重別出生数・割合，性別

性別	総数	令和5年							不詳
		1.0Kg未満	1.0以上 2.0未満	2.0以上 2.5未満	2.5以上 3.0未満	3.0以上 3.5未満	3.5以上 4.0未満	4.0Kg以上	
総数 (割合)	9,950 (100.0)	32 (0.3)	169 (1.7)	762 (7.7)	3,903 (39.2)	4,120 (41.4)	895 (9.0)	68 (0.7)	1 (0.0)
男 (割合)	5,148 (100.0)	14 (0.3)	88 (1.7)	346 (6.7)	1,815 (35.3)	2,283 (44.3)	560 (10.9)	42 (0.8)	－
女 (割合)	4,802 (100.0)	18 (0.4)	81 (1.7)	416 (8.7)	2,088 (43.5)	1,837 (38.3)	335 (7.0)	26 (0.5)	1 (0.0)

（注）数値は小数点第二位を四捨五入しているため、内訳の総和と総数が一致しない場合がある。

図４ 出生時の体重別出生割合，性別



【出典】人口動態統計

② 市町村別死亡率（表 10）

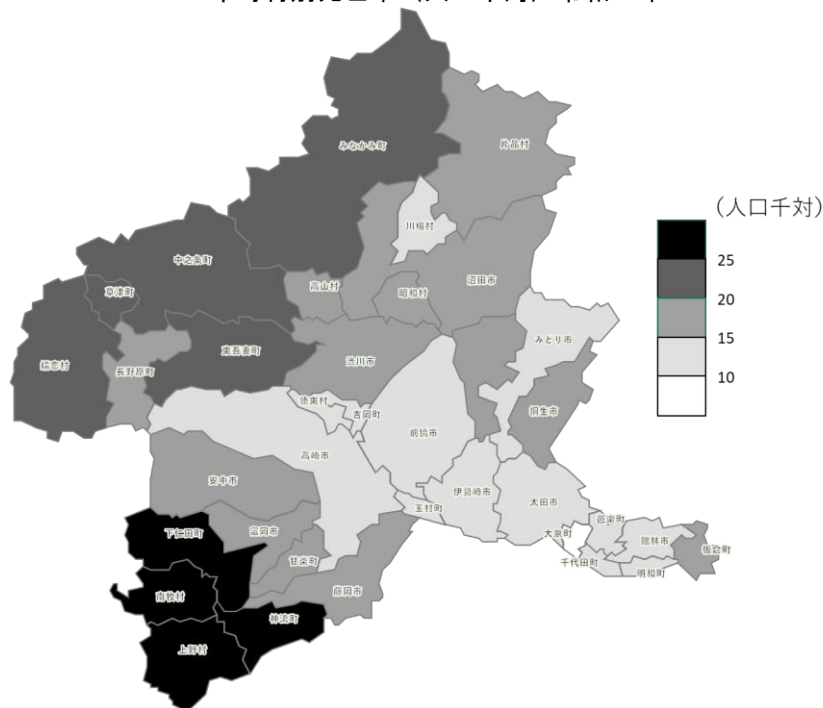
市町村別にみると、令和 5 年の死亡率で最も高いのは神流町の 40.0 で、次いで南牧村 39.2、下仁田町の 34.2 の順となっている。一方、最も低いのは大泉町の 9.1 で、次いで吉岡町の 10.2、榛東村の 11.6 の順となっている。

表 10 死亡率（人口千対）の高率市町村と低率市町村の推移

	順位	平成2	12	22	27	令和元	2	3	4	5
高い	1	上野村 14.0 川場村	万場町 22.0	神流町 29.8	南牧村 29.8	神流町 36.0	南牧村 37.2	神流町 33.8	神流町 34.3	神流町 40.0
	2		(勢)東村 19.8	南牧村 26.8	神流町 29.2	南牧村 32.8	神流町 31.0	南牧村 31.9	南牧村 32.0	南牧村 39.2
	3	中里村 12.4 下仁田町	南牧村 17.4	高山村 18.4	下仁田町 26.3	下仁田町 24.8	下仁田町 27.2	下仁田町 25.9	上野村 30.9	下仁田町 34.2
	4		中里村 12.8	上野村 17.6	上野村 20.3	東吾妻町 19.0	上野村 21.3	片品村 19.0	下仁田町 30.1	上野村 27.2
	5	南牧村 12.1	黒保根村 12.4 下仁田町	下仁田町 16.8	川場村 19.5	片品村 17.5	高山村 20.2	東吾妻町 18.8	みなかみ町 22.3	草津町 23.1
低い	5	榛東村 5.2	群馬町 6.0	伊勢崎市 8.9	太田市 9.4	伊勢崎市 10.0	伊勢崎市 10.2 榛東村	伊勢崎市 10.9 太田市	伊勢崎市 11.6	太田市 11.9
	4	群馬町 5.1 玉村町	赤堀町 5.9	吉岡町 7.3	伊勢崎市 8.9	榛東村 9.9	太田市 10.1	玉村町 9.3		伊勢崎市 11.7
	3		玉村町 5.1	玉村町 7.1	玉村町 8.3	玉村町 9.2	吉岡町 8.7	榛東村 9.2 玉村町	榛東村 10.8 玉村町	榛東村 11.6
	2	大泉町 4.6	(佐)東村 5.0 大泉町	大泉町 6.8	大泉町 7.8	大泉町 8.3	玉村町 8.6	吉岡町 8.8	吉岡町 10.7	吉岡町 10.2
	1	笠懸町 4.4		榛東村 6.5	吉岡町 7.7	吉岡町 7.5	大泉町 7.5	大泉町 8.3	大泉町 9.7	大泉町 9.1
県計		7.0	8.1	10.3	11.1	12.3	12.4	13.0	14.4	14.6

【出典】人口動態統計

市町村別死亡率（人口千対）令和 5 年



死亡率 群馬県 (14.6) 全国 (13.0)

【出典】人口動態統計

（３）性・年齢階級別にみた死亡（表 11）【統計編 2－第 12 表】

年齢（５歳階級）別に死亡率をみると、男女ともに「10～14 歳」で最も低く、40 歳頃以降は高齢となるにつれて急速に上昇している。また、性別で死亡率をみると、「5～9 歳」以上の年齢階級において、男が女を上回っている。

表 11 性・年齢（５歳階級）別死亡数・率（人口 10 万対）、対全国

（令和 5 年）

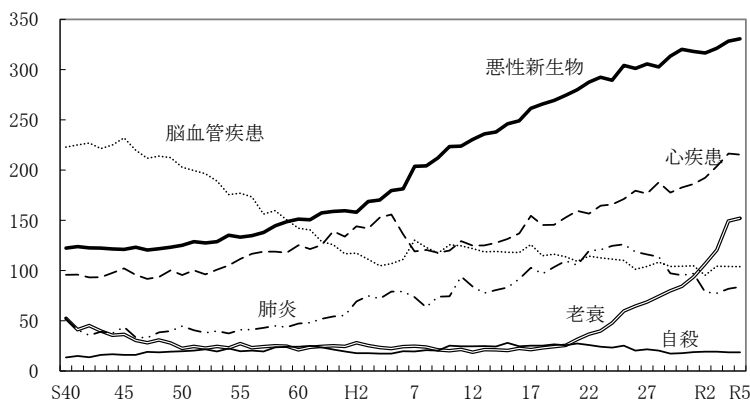
年齢	馬 県						全 国		
	群 数			死 亡 率			死 亡 率		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総 数	26,743	13,751	12,992	1,460.6	1,519.4	1,403.0	1,300.4	1,362.5	1,241.7
0～4 歳	34	14	20	58.0	46.6	70.0	47.0	48.5	45.5
5～9	6	4	2	8.6	11.2	5.9	7.2	7.7	6.6
10～14	5	3	2	6.3	7.4	5.2	9.1	9.8	8.4
15～19	15	10	5	17.1	22.1	11.8	24.1	27.5	20.5
20～24	44	25	19	50.6	54.4	46.4	37.6	46.2	28.6
25～29	33	24	9	40.1	54.9	23.3	39.4	51.5	26.9
30～34	42	28	14	48.4	60.9	34.4	47.4	61.3	32.9
35～39	57	38	19	58.3	74.7	40.6	65.6	83.8	46.7
40～44	98	59	39	87.6	102.0	72.2	93.7	116.0	70.7
45～49	203	135	68	148.7	192.3	102.6	147.3	184.5	108.9
50～54	340	223	117	234.7	301.3	165.1	236.9	299.5	172.8
55～59	461	328	133	373.0	523.7	218.1	360.6	481.7	238.4
60～64	685	461	224	606.7	816.3	396.9	566.8	787.8	348.9
65～69	1,116	776	340	940.2	1,322.0	566.7	908.3	1,302.7	533.4
70～74	2,289	1,576	713	1,594.4	2,298.5	950.7	1,526.0	2,212.8	911.9
75～79	3,174	2,056	1,118	2,602.0	3,630.9	1,710.6	2,397.1	3,444.7	1,538.8
80～84	4,133	2,469	1,664	4,458.9	6,181.9	3,154.4	4,225.7	5,953.5	2,989.4
85～89	5,319	2,721	2,598	8,842.0	12,178.3	6,870.7	8,092.3	11,064.1	6,391.8
90 歳以上	8,689	2,801	5,888	20,391.9	24,471.4	18,893.6	18,318.9	22,203.9	16,944.0
年齢不詳	—	—	—	—	—	—	…	…	…

【出典】人口動態統計

（４）主な死因別にみた死亡（図 7）【統計編 2－第 15、17 表】

主な死因の年次推移をみると、「悪性新生物」は昭和 60 年から死因順位の第 1 位となっており、令和 5 年の死亡率は 330.6 で死亡数の 22.6% を占めている。第 2 位は「心疾患（高血圧性を除く）」で死亡率は 215.4、第 3 位は「老衰」で 152.0、第 4 位は「脳血管疾患」で 103.9 となっている。「老衰」を除くこれらの三大疾病による死亡が全死亡数の 44.4% を占めている。なお、平成 22 年から平成 28 年までは「肺炎」による死亡数が第 3 位だったが、平成 29 年から令和元年までは「脳血管疾患」、令和 2 年からは「老衰」が第 3 位となっている。

図 7 死因別死亡率（人口 10 万対）の推移



【出典】人口動態統計

（５）性別死因順位及び全国比較（表 12、図 8）【統計編 2－第 15 表】

男の第 1 位は「悪性新生物＜腫瘍＞」の 390.7 で、前年に比べ 5.7 ポイント上昇した。第 2 位の「心疾患（高血圧性を除く）」は 215.7 で前年に比べ 0.9 ポイント低下し、第 3 位の「脳血管疾患」は 103.6 で前年に比べ 1.4 ポイント低下した。

女の第 1 位も「悪性新生物＜腫瘍＞」の 271.9 で、前年に比べ 1.2 ポイント低下した。第 2 位の「心疾患（高血圧性を除く）」は 215.1 で前年に比べ 1.0 ポイント低下し、第 3 位の「老衰」は 215.1 で前年に比べ 5.2 ポイント上昇した。

主な死因の死亡率を全国と比較すると、男女ともに老衰以外の死因において本県が全国を上回っている。

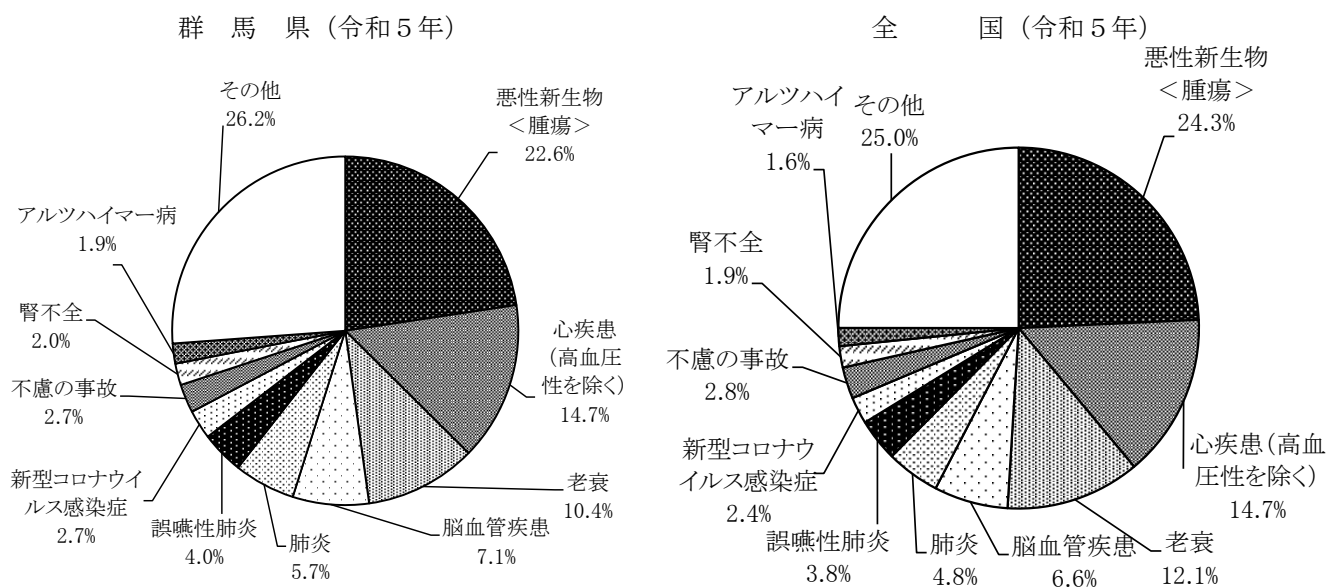
表 12 死因別死亡率（人口 10 万対）、性別・対全国

死 因	群 馬 県			全 国		
	総 数	男	女	総 数	男	女
全 死 因	1,460.6	1,519.4	1,403.0	1,300.4	1,362.5	1,241.7
1 悪 性 新 生 物 < 腫 瘍 >	330.6	390.7	271.9	315.6	375.8	258.7
2 心 疾 患 （ 高 血 圧 性 を 除 く ）	215.4	215.7	215.1	190.7	192.1	189.5
3 老 衰	152.0	87.5	215.1	156.7	90.4	219.4
4 脳 血 管 疾 患	103.9	103.6	104.1	86.3	87.7	84.8
5 肺 炎	83.7	93.4	74.3	62.5	73.9	51.7
6 誤 嚥 性 肺 炎	58.0	71.6	44.7	49.7	60.5	39.4
7 新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症	39.5	41.0	38.0	31.4	34.4	28.6
8 不 慮 の 事 故	38.8	45.5	32.2	36.7	43.4	30.3
9 腎 不 全	29.3	33.4	25.4	24.9	27.1	22.8
10 ア ル ツ ハ イ マ ー 病	27.1	20.7	33.5	21.0	14.7	27.0

【出典】人口動態統計

（注）記載順は群馬県の総数における順位による。

図 8 死因別死亡割合、対全国



【出典】人口動態統計

（注）割合の数値は小数点第二位を四捨五入しているため、総和は 100%にならない。

（６）悪性新生物の部位別死亡（表 13、図 9）【統計編 2－第 14、18、19、21 表】

死亡率を部位（死因分類）別にみると、「気管、気管支及び肺」が 66.1 で最も高く、次いで「結腸」、「直腸 S 状結腸移行部及び直腸」を合わせた「大腸」の 49.6、「胃」の 35.4 の順である。

表 13 悪性新生物の死亡数・率（人口 10 万対），性・部位（死因簡単分類）別

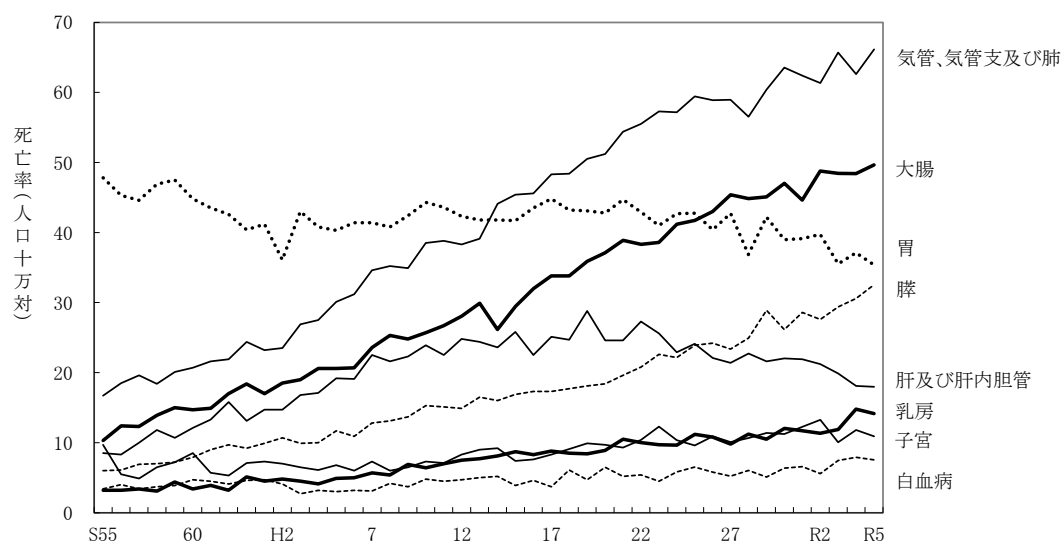
（令和 5 年）

部 位	死 亡 数			死 亡 率		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総数	6,054	3,536	2,518	330.6	390.7	271.9
口唇、口腔及び咽頭	114	80	34	6.2	8.8	3.7
食道	154	124	30	8.4	13.7	3.2
胃	648	428	220	35.4	47.3	23.8
結腸	597	294	303	32.6	32.5	32.7
直腸 S 状結腸移行部及び直腸	312	200	112	17.0	22.1	12.1
肝及び肝内胆管	329	210	119	18.0	23.2	12.9
胆のう及び他の胆道	292	150	142	15.9	16.6	15.3
膵	596	291	305	32.6	32.2	32.9
喉頭	14	14	－	0.8	1.5	－
気管、気管支及び肺	1,211	868	343	66.1	95.9	37.0
皮膚	23	10	13	1.3	1.1	1.4
乳房	259	2	257	14.1	0.2	27.8
子宮	101	・	101	10.9	・	10.9
卵巣	83	・	83	9.0	・	9.0
前立腺	236	236	・	26.1	26.1	・
膀胱	149	102	47	8.1	11.3	5.1
中枢神経系	49	28	21	2.7	3.1	2.3
悪性リンパ腫	251	137	114	13.7	15.1	12.3
白血病	138	82	56	7.5	9.1	6.0
その他のリンパ組織	73	37	36	4.0	4.1	3.9
その他	425	243	182	23.2	26.9	19.7
（再掲）大腸	909	494	415	49.6	54.6	44.8

【出典】人口動態統計

（注）「前立腺」総数の率は男子人口 10 万対、「子宮」「卵巣」総数の率は女子人口 10 万対による。

図 9 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の推移



【出典】人口動態統計

4 乳児死亡

(1) 乳児死亡の動向 (表 14、図 10) 【統計編 2-第1、2表】

本県の乳児死亡率（出生千対）は、昭和 22 年に 66.1 と極めて高い死亡率を示していたが、その後は年々低下を続け、昭和 35 年には 32.2 と昭和 22 年の 2 分の 1 に低下した。

その後、昭和 45 年に 14.2、55 年に 7.9 と、10 年毎に約 2 分の 1 のペースで低下し、以降は増減を繰り返しながらもゆるやかな減少傾向で推移している。

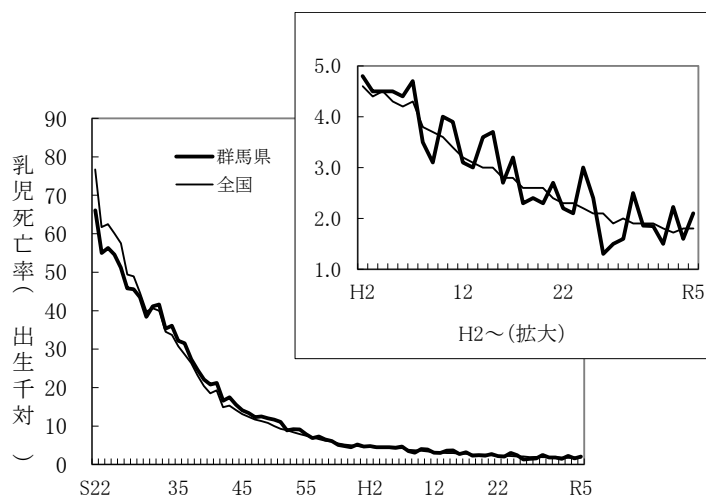
令和 5 年の乳児死亡数は 21 人で、率は 2.1 と前年より 0.5 ポイント上昇した。

乳児死亡率を全国と比較すると、令和 5 年は全国を 0.3 ポイント上回った。

表 14 乳児死亡数・率（出生千対）及び
総死亡中乳児死亡の占める割合の推移

年次	乳児 死亡数	乳児 死亡率	総死亡中 乳児死亡 の割合 %	全国乳児 死亡率
昭和30	1,241	38.4	9.7	39.8
40	589	21.1	4.6	18.5
50	347	11.7	2.8	10.0
60	118	5.1	0.9	5.5
平成 7	92	4.7	0.6	4.3
17	55	3.2	0.3	2.8
27	22	1.5	0.1	1.9
28	22	1.6	0.1	2.0
29	33	2.5	0.1	1.9
30	24	1.9	0.1	1.9
令和元	22	1.8	0.1	1.9
2	18	1.5	0.1	1.8
3	25	2.2	0.1	1.7
4	17	1.6	0.1	1.8
5	21	2.1	0.1	1.8

図 10 乳児死亡率（出生千対）の推移、対全国



【出典】人口動態統計

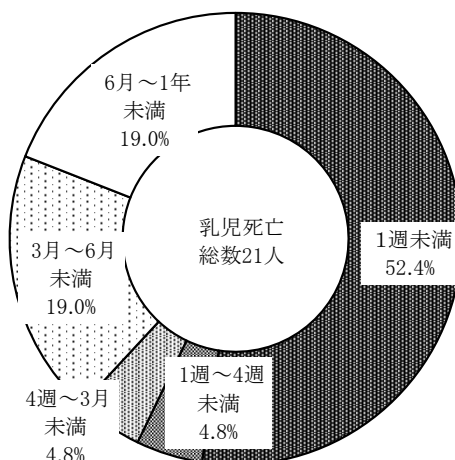
(2) 日齢一月齢別乳児死亡 (図 11) 【統計編 2-第25表】

1 週未満の死亡（乳児）は 11 人で 52.4%と、最も割合を占めている。

次いで、3 月～6 月未満及び 6 月～1 年未満の死亡（乳児）が 4 人で、それぞれ全乳児死亡の 19.0%を占めている。

図 11 日齢一月齢別死亡割合

(令和 5 年)

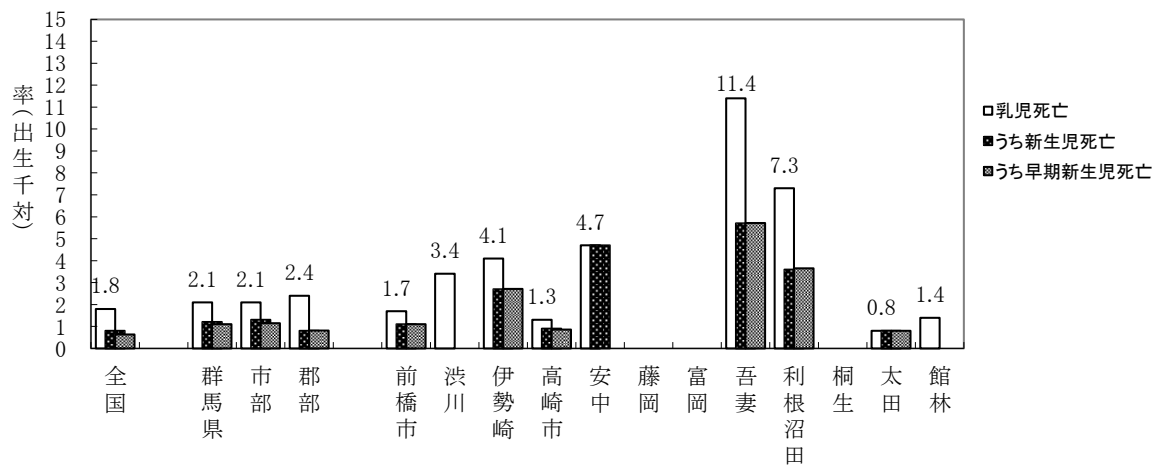


【出典】人口動態統計

(3) 地域別乳児死亡率 (図 12) 【統計編 2-第3表】

保健福祉事務所（保健所）別にみると、最も高いのは吾妻保健福祉事務所の 11.4 だった。
また、藤岡、富岡、桐生保健福祉事務所管内は乳児死亡がなかった。

図 12 保健福祉事務所（保健所）別乳児・新生児・早期新生児死亡率（出生千対）



【出典】人口動態統計

(4) 新生児死亡の動向 (表 15) 【統計編 2-第1、3表】

母子保健の向上により新生児死亡は年々減少し、統計を表象し始めた昭和 26 年には出生千対 26.1 であったものが、近年は 1.0 前後まで低下している。

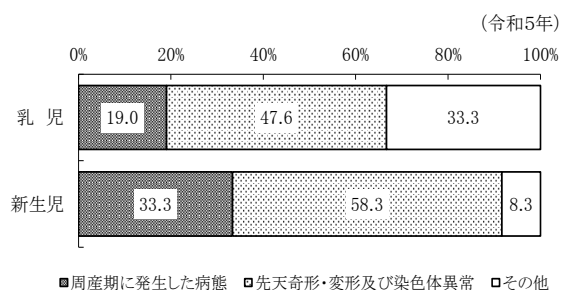
令和 5 年の新生児死亡数は 12 人で、前年に比べ率で 0.4 ポイント上昇し、全国を 0.4 ポイント上回った。

表 15 新生児死亡数・率（出生千対）及び乳児死亡中新生児死亡の占める割合の推移

年次	新生児死亡数	新生児死亡率	乳児死亡中新生児死亡の割合%	全国新生児死亡率
昭和60	80	3.5	67.8	3.4
平成2	60	3.1	64.5	2.6
7	47	2.4	51.1	2.2
12	35	1.8	57.4	1.8
17	29	1.7	52.7	1.4
22	18	1.1	51.4	1.1
27	12	0.8	54.5	0.9
28	12	0.9	54.5	0.9
29	17	1.3	51.5	0.9
30	8	0.6	33.3	0.9
令和元	14	1.2	63.6	0.9
2	10	0.9	55.6	0.8
3	7	0.6	28.0	0.8
4	9	0.8	52.9	0.8
5	12	1.2	57.1	0.8

【出典】人口動態統計

(5) 乳児死亡及び新生児死亡の死因別割合 (図 13) 【統計編 2-第26表】



【出典】人口動態統計

図 13 乳児及び新生児死亡の死因別割合

乳児死亡の死因別割合をみると、「先天奇形・変形及び染色体異常」が 10 人（47.6%）と最も多い。

また、新生児死亡の死因別割合をみると、同じく「先天奇形・変形及び染色体異常」が最も多く 7 人（58.3%）、ついで「周産期に発生した病態」が 4 人（33.3%）の順である。

5 死産、周産期死亡

(1) 死産の動向（表 16、図 14）

【統計編 2－第 1、2 表】

本県の死産率（出産千対）は、昭和 20 年代後半から昭和 33 年まで 100.0 前後で推移していたが、その後は昭和 41 年の「ひのえうま」の影響による特殊な増加を除き低下傾向を示している。

令和 5 年の死産数は 224 胎で前年に比べ 27 胎減少し、率は 22.0 で前年を 0.9 ポイント下回った。

うち、自然死産は 98 胎で前年と比べ 12 胎減少し、率は 9.6 で前年を 0.5 ポイント下回った。また、人工死産は 126 胎で前年に比べ 15 胎減少し、率は 12.4 で前年を 0.5 ポイント下回った。

死産率（総数）を全国と比較すると、昭和 34 年以降は平成 10 年、16 年を除き、平成 18 年までは全国を下回って推移していたが、近年は全国を上回る年もある。令和 5 年は全国を 1.1 ポイント上回った。

図 14 死産率（出産千対）の推移，対全国

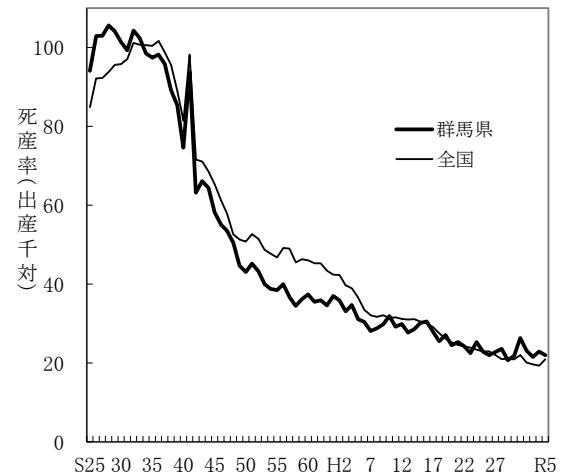


表 16 自然－人工別死産数・率（出産千対）の推移，対全国

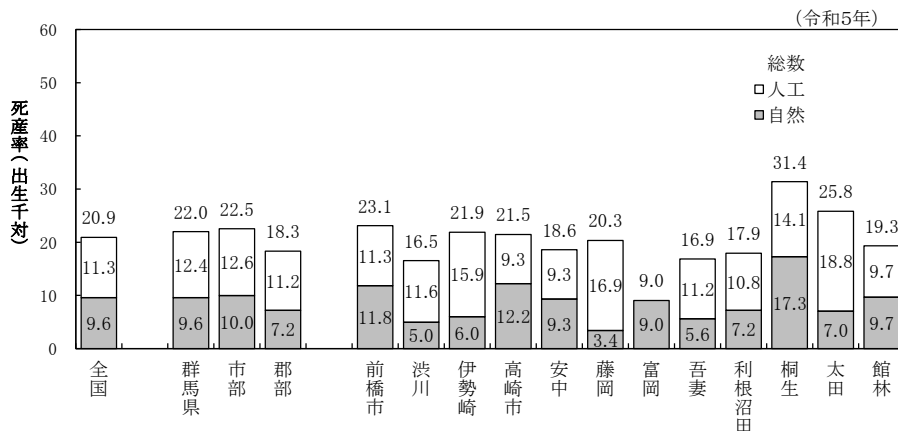
年次	群馬県						全国死産率		
	死産数			死産率					
	総数	自然	人工	総数	自然	人工	総数	自然	人工
昭和60	890	469	421	37.4	19.7	17.7	46.0	22.1	23.9
平成7	561	271	290	28.1	13.6	14.5	32.1	14.9	17.2
17	491	200	291	27.9	11.3	16.5	29.1	12.3	16.7
27	332	160	172	22.8	11.0	11.8	22.0	10.6	11.4
28	330	163	167	23.6	11.7	11.9	21.0	10.1	10.9
29	280	137	143	20.7	10.1	10.5	21.1	10.1	11.0
30	288	132	156	21.8	10.0	11.8	20.9	9.9	11.0
令和元	322	147	175	26.3	12.0	14.3	22.0	10.2	11.8
2	276	132	144	23.1	11.1	12.1	20.1	9.5	10.6
3	247	112	135	21.5	9.8	11.8	19.7	9.8	9.9
4	251	110	141	22.9	10.1	12.9	19.3	9.4	9.9
5	224	98	126	22.0	9.6	12.4	20.9	9.6	11.3

【出典】人口動態統計

(2) 地域別死産（図 15）【統計編 2－第 3 表】

令和 5 年の死産率を保健福祉事務所（保健所）別にみると、最も高いのは桐生保健福祉事務所の 31.4 で、最も低いのは富岡保健福祉事務所の 9.0 であった。

図 15 保健福祉事務所別自然－人工別死産率（出産千対）



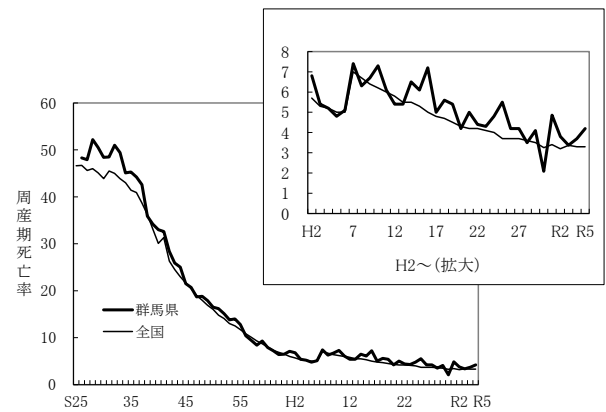
【出典】人口動態統計

（３）周産期死亡の動向（表 17、図 16）【統計編 2－第 1、2 表】

周産期死亡（妊娠 22 週以後の死産＋早期新生児死亡）は「出生をめぐる死亡」といわれ、母体の健康状態等に影響されることが多く、母子保健水準の重要な指標とされている。

令和 5 年の周産期死亡数は 42 人で、率（（出生＋妊娠 22 週以後の死産）千対）は 4.2 であり、全国より 0.9 ポイント上回った。

図 16 周産期死亡率（（出生＋妊娠 22 週以後の死産）千対）の推移、対全国



【出典】人口動態統計

表 17 周産期死亡数・率（（出生＋妊娠 22 週以後の死産）千対）の推移、対全国

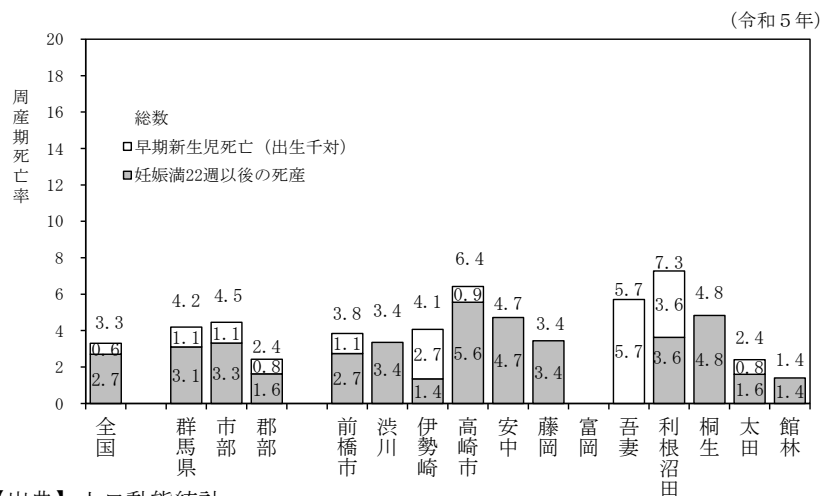
年次	群馬県						全国周産期死亡率		
	周産期死亡数			周産期死亡率					
	総数	妊娠満22週以後の死産	早期新生児死亡	総数	妊娠満22週以後の死産	早期新生児死亡	総数	妊娠満22週以後の死産	早期新生児死亡
昭和60	338	272	66	14.6	11.7	2.9	15.4	12.9	2.6
平成 7	144	109	35	7.4	5.6	1.8	7.0	5.5	1.5
17	86	66	20	5.0	3.8	1.2	4.8	3.8	1.0
27	60	50	10	4.2	3.5	0.7	3.7	3.0	0.7
28	48	38	10	3.5	2.8	0.7	3.6	2.9	0.7
29	55	43	12	4.1	3.2	0.9	3.5	2.8	0.7
30	27	21	6	2.1	1.6	0.5	3.3	2.6	0.7
令和元	58	46	12	4.9	3.9	1.0	3.4	2.7	0.7
2	44	35	9	3.8	3.0	0.8	3.2	2.5	0.7
3	38	31	7	3.4	2.8	0.6	3.4	2.7	0.6
4	40	35	5	3.7	3.3	0.5	3.3	2.7	0.6
5	42	31	11	4.2	3.1	1.1	3.3	2.7	0.6

【出典】人口動態統計

（４）地域別周産期死亡（図 17）【統計編 2－第 3 表】

周産期死亡率について保健福祉事務所（保健所）別にみると、最高は利根沼田保健福祉事務所の 7.3 であった。富岡保健福祉事務所は、周産期死亡がなかった。

図 17 保健福祉事務所別周産期死亡率（（出生＋妊娠 22 週以後の死産）千対）



【出典】人口動態統計

6 婚姻、離婚

(1) 婚姻の動向 (表 18、図 18) 【統計編 2－第 1、2 表】

令和 5 年の婚姻件数は 6,220 件で前年に比べ 484 件減少し、率(人口千対)は 3.4 と前年より 0.2 ポイント低下した。

婚姻率を年次推移でみると、昭和 47 年の 9.7 をピークに低下傾向となり、平成 2 年から上昇に転じたが、平成 13 年以降は上下を繰り返しながら低下傾向となっている。

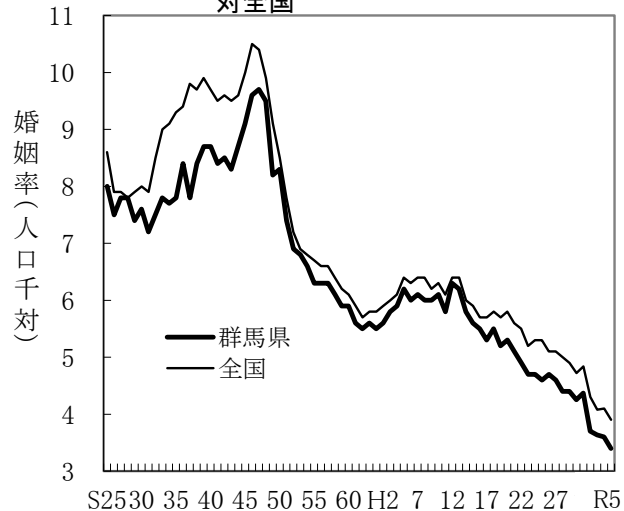
婚姻率を全国と比較すると、全国よりも低率で推移している。

表 18 婚姻件数・率(人口千対)の推移、
対全国

年次	婚姻件数	婚姻率	全国婚姻率
30	12,249	7.6	8.0
40	13,921	8.7	9.7
50	14,487	8.3	8.5
60	11,254	5.9	6.1
7	12,147	6.1	6.4
17	10,601	5.3	5.7
27	8,820	4.6	5.1
28	8,444	4.4	5.0
29	8,329	4.4	4.9
30	8,088	4.3	4.7
令和元	8,238	4.4	4.8
2	7,044	3.7	4.3
3	6,787	3.6	4.1
4	6,704	3.6	4.1
5	6,220	3.4	3.9

【出典】人口動態統計

図 18 婚姻件数・率(人口千対)の推移、
対全国



(2) 平均初婚年齢 (表 19、図 19) 【統計編 2－第 31 表】

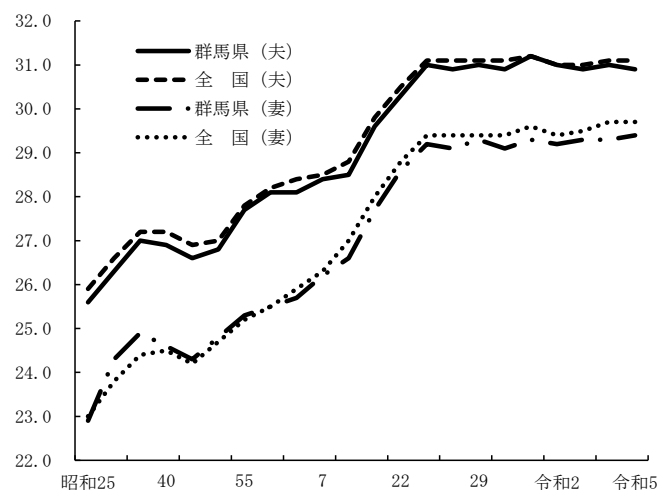
平均初婚年齢は、昭和 40 年代後半に若干低下したものの上昇傾向にあったが、近年は横ばいとなっている。

令和 5 年の平均初婚年齢は夫 30.9 歳、妻 29.4 歳で、前年と比べると、夫は 0.1 歳低下し、妻は 0.1 歳上昇した。

表 19 平均初婚年齢の推移

区分	群馬県		全国	
	夫	妻	夫	妻
昭和30	26.3	24.3	26.6	23.8
40	26.9	24.6	27.2	24.5
50	26.8	24.8	27.0	24.7
60	28.1	25.5	28.2	25.5
平成7	28.4	26.2	28.5	26.3
17	29.6	27.7	29.8	28.0
27	31.0	29.2	31.1	29.4
28	30.9	29.1	31.1	29.4
29	31.0	29.3	31.1	29.4
30	30.9	29.1	31.1	29.4
令和元	31.2	29.3	31.2	29.6
2	31.0	29.2	31.0	29.4
3	30.9	29.3	31.0	29.5
4	31.0	29.3	31.1	29.7
5	30.9	29.4	31.1	29.7

図 19 平均初婚年齢の推移



【出典】人口動態統計

(注) 結婚式をあげた時又は同居を始めた時の年齢である。

(3) 離婚の動向 (表 20、図 20) 【統計編 2－第 1、2 表】

令和 5 年の離婚件数は 2,751 件で前年に比べ 14 件減少した。率（人口千対）は 1.50 と前年より 0.01 ポイント上昇した。

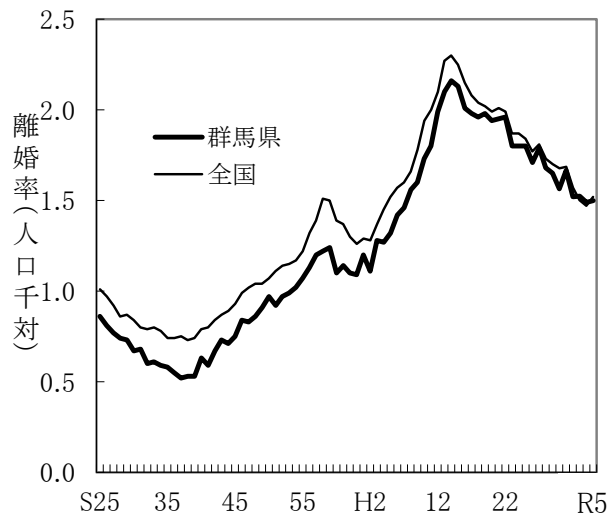
離婚率を年次推移でみると、昭和 25 年には 0.86 であったが、以後低下傾向を示し、昭和 37 年には 0.52 となった。その後は増減を繰り返しながらも上昇傾向が続いた後、平成 14 年をピークに、以降は低下傾向が続いている。

離婚率を全国と比較すると、令和 3、4 年は全国より高い値であったが、令和 5 年は全国を下回った。

表 20 離婚件数・率（人口千対）の推移

年次	離婚件数	離婚率	全国離婚率
昭和30	1,077	0.67	0.84
40	1,004	0.63	0.79
50	1,709	0.97	1.07
60	2,099	1.10	1.39
平成 7	2,892	1.46	1.60
17	3,948	1.98	2.08
27	3,463	1.79	1.81
28	3,241	1.68	1.73
29	3,154	1.65	1.70
30	2,973	1.56	1.68
令和元	3,142	1.67	1.69
2	2,857	1.52	1.57
3	2,842	1.52	1.50
4	2,765	1.49	1.47
5	2,751	1.50	1.52

図 20 離婚率（人口千対）の推移，対全国

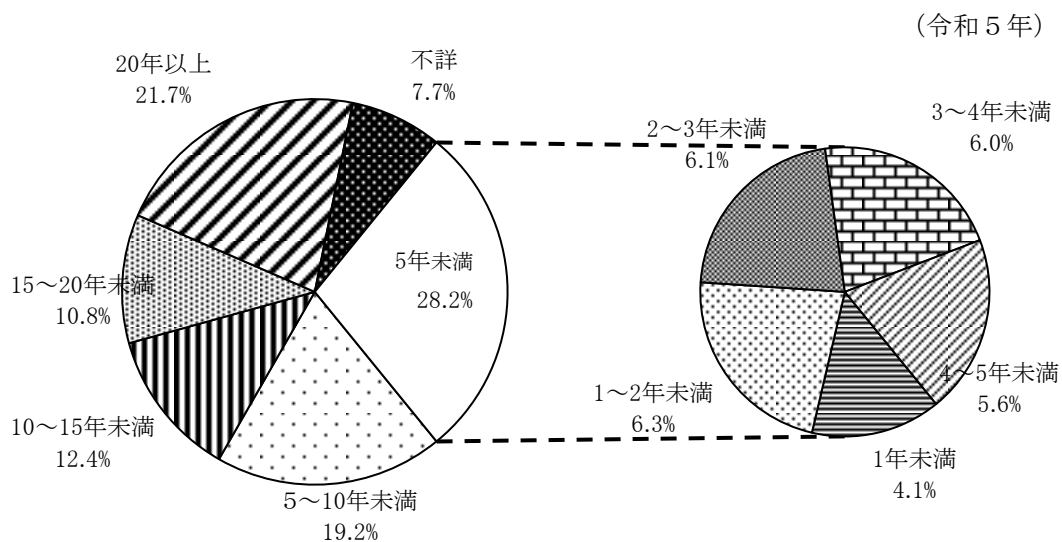


【出典】人口動態統計

(4) 同居期間別にみた離婚【統計編 2－第 33、34 表】

同居期間別に離婚件数をみると、最も多いのは「5 年未満」の 777 件 (28.2%) で、次いで「20 年以上」の 596 件 (21.7%)、「5～10 年未満」の 527 件 (19.2%) であった。

図 21 同居期間別にみた離婚の割合



【出典】人口動態統計